



'STI for SDGs'
AWARD

委員長メッセージ

～ 選考にあたって ～

今年度の「STI for SDGs」アワードには、多数の応募をいただきました。昨年度と比較して、若干応募件数は微減という結果ではありますが、新型コロナウイルス感染症流行の中、多数のご応募をいただいたことに感謝申し上げます。

今回も、応募案件の中には、興味深い取組が多数ありました。その中から、本アワードの目指すところである「STIの活用」および他地域への「展開性」に特に秀でている取組につき、9月下旬に予定の面接選考にお呼びする取組を決定したところです。対象となった団体の皆様から詳しいお話を伺うことを、委員会としても楽しみにしています。

今回、残念ながら選に漏れた取組も、総じて取組自体の意義は高く、社会課題の解決に向け真剣に取り組まれていらっしゃる事が、いただいた資料からも強く伝わってきました。応募時のメッセージでもお伝えした通り、世界中が共通の難局に向き合っている今、SDGsの掲げる「誰ひとり取り残さない理念」や持続可能であることの重要性がますます高くなっています。ぜひ、現在の取組を継続し、更に発展させて行かれることを期待しています。

「STI for SDGs」アワード選考委員会委員長 蟹江 憲史
(慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授)